

ニューズレター2006年度第1号

2006年7月31日発行

日本音楽表現学会第4回（グリーン・アベニュー）大会特集号 目次

1. [巻頭言] アメイジング・グレイス	中村 隆夫	2
2. グリーン・アベニュー大会：写真集		2~13
3. グリーン・アベニュー大会を終えて	井戸 和秀	3
4. 2006年度総会報告		4
1. 開会の辞		
2. 議長選出		
3. 報告 (1) 2005年度事業報告		4
(2) 第3回（アクアブルー）大会決算報告		5
(3) 2005年度会計報告・監査報告		6
(4) 2006-7年度会長・理事選挙報告		7
4. 協議 (1) 2006-7年度役員体制について		7
(2) 2006年度事業計画（案）について		7
(3) 第4回（グリーン・アベニュー）大会予算案について		8
(4) 2006年度予算（案）について		9
(5) 編集委員会規定改正（案）について		10
(6) 第5回大会開催地について		11
5. グリーン・アベニュー大会関連新聞記事：山陽新聞7月11日付		12
6. 新旧役員紹介		13
7. 日本音楽表現学会 Q&A		14
8. 新入会員紹介		14
9. 国際学会報告：第27回ISMEマレーシア大会	奥 忍・菅 道子・阿部 祐治	15
10. 会員によるコンサート案内		16
11. 新刊紹介		17
12. 学会からのお知らせ 『音楽表現学』Vol.5 進捗状況 他		18
13. 学会からのおねがい		19
14. 「コンサート等後援願」書式		20
15. 「入会申込書」書式		20
16. 役員名簿・編集後記		20

日本音楽表現学会事務局 〒700-8530 岡山市津島中3-1-1 岡山大学教育学部 奥研究室気付
Tel. & Fax. 086-251-7647 E-mail: s-oku@cc.okayama-u.ac.jp
http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~eeakita/kitayama/OHG-index.htm

郵便振込口座：01370-6-78225 音楽表現学会

銀行口座：三井住友銀行(0009)岡山支店(651)日本音楽表現学会(普)6639449

日本音楽表現学会会長 中村 隆夫（指揮）

学校教育を学生と語るとき、私はときどき「いわゆる主要5科目と周辺科目の比率を逆転させる、あるいはせめて同率にしたほうがいいと思う」という一見乱暴な意見をぶつけてみます。「何をいうんだろう」といぶかる学生に、ジュール・ヴェルヌ「十五少年漂流記」を引き合いに出し、無人島に流れ着いた子どもたちがどんな行動をとるかを問うてみます。「まず初めにすることは？」と問えば、たいがい「食料を確保し、住む場所を定める」という答えが返ってきます。料理をするために火をおこし、住居を作るために船から必要な資材を運んでくる、と答える学生もいます。その答えに対して「それらを扱う教科は？」と問うと、「家庭科と技術科」という答が間違いなく返ってきます。「では、住むところは決まった、お腹も満たされた。君たちならその後どうする？」と訊くと、しばし「ああだ、こうだ」といってなかなか一致した意見になりません。そこで意地悪く「じゃあ、みんなで勉強の時間にしようと思う？」などと訊けば、「そんなことはしない」といい、そのうちに「あっ、私なら歌を歌うと思います」という言葉が出てきます。「そう、私もそう思う。ではその教科は？」の問には、「音楽です。先生はそれをおっしゃりたかったんですね」と、苦笑まじりに答えます。（私はなんというあざとい教師なのでしょう）

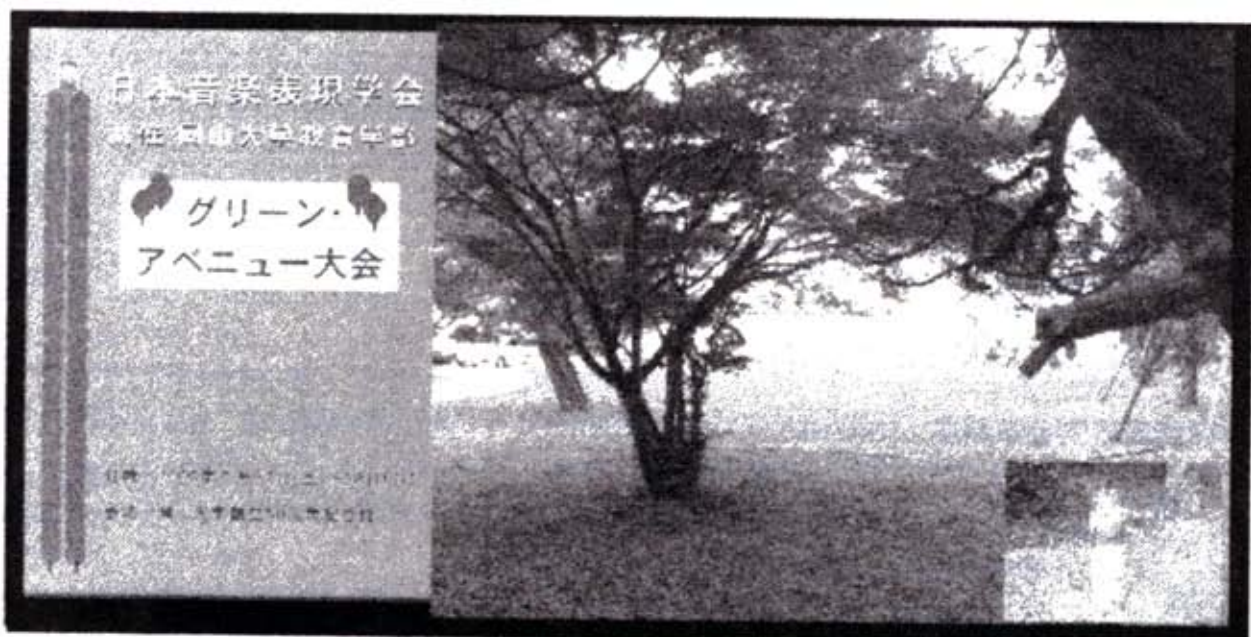
つづけて私は、暮らしの基盤が定まればひとは歌い、家を飾り、物を作り、スポーツをして生活すること、家庭、技術、音楽、美術、体育がいかに大切な教科である

かを説きます。そこから考えて現在の教科比率はほんとうにそれでよいのか、またそれにともなって、これらの教科は本来もとめられる内容を満たしているのかをかれらに問うのです。皆さんはどう思われるでしょうか。

つい先頃亡くなった歌手、本田美奈子さんのドキュメンタリー番組をテレビで見ました。元来、私はクラシック音楽以外にはあまり縁がなく、その存在を知ったのも彼女が不治の病で亡くなったことを報じるニュースによってでした。テレビから流れるアメイジング・グレイスの歌声に心動かされ、音楽が人間にとって欠くことのできない心の糧であることを改めて思いました。

昔の音楽教科書には「お堅い」曲ばかりがならんでいましたが、その後フォークが入り、やがてジャズ、ニューミュージック、ついにはロックまで加わる時代になりました。音楽も音楽教育も多様化する中で、無人島に流れ着くかもしれない現代の若者たちが、ふと口ずさむ節はどのようなものなのでしょう。学校教育がどのようなものであるかによって、若者たちが身につける音楽も大きく左右されます。

ゾルターン・コダーイは「ブダベスト・オペラ劇場の音楽監督が誰であるかよりも、片田舎の小学校の音楽教師がどのような人であるかの方がはるかに大切だ」といいました。またそのためには、音楽教師がどんな音楽家にもまして豊かな音楽性を身につけるべきことを強調しました。私が常に心にとどめ、学生たちに語りかける言葉です。



緑の木立の中で開かれたグリーン・アベニュー大会

グリーン・アベニュー大会を終えて

グリーン・アベニュー大会実行委員長 井戸 和秀

奥忍さんを筆頭とした準備委員の用意周到な準備によって、無事に「グリーン・アベニュー大会」を終えることができました。これも一重に準備委員会を支えて頂いた会員の皆様方をはじめ、岡山大学教育学部、福武教育振興財団、林原共済会のお陰であると感謝しております。また、多くの教育委員会の後援を頂いたことによって日本音楽表現学会の存在を大いにアピールできたものと思っています。そして、何よりも喜ばしいことは、参加された皆様方の非常にご熱心な態度でした。やはり、求めているものは同じだな！と感じ入った次第です。

初日は、五嶋みどり氏による「これからの演奏家の理想の姿」の基調講演では、ご自分の真摯な社会的活動を踏まえた演奏家のあり方に感動させられました。ご参加の皆様も同様に感動されたことと思います。またシンポジウムでは「音楽家の活動ーコミュニティー・エンゲージメント」と題し、音楽家の社会的存在の意義・意味に関する熱い討議が行われました。音楽家の積極的な社会参加と音楽家の意識の変革の必要性が日本にも大いに求められていると思いました。更に、西洋音楽と邦楽に関して実演を伴ったワークショップが同時平行で行われ、それらにおける様式や感性の相違が理解されやすかったのではないかと考えております。その上、内容的に専門的でありながら解りやすい解説のため、本学会にふさわしいものになったの

ではないでしょうか。

二日目は、3つのグループに分かれ、16の研究発表と一つのパネルディスカッションが行われました。それぞれの会場では研究発表に対する熱心な討議が行われたました。内容的には、音楽全般に関するもので、本学会の層の厚さを感じるとともに、音楽表現の多面性を学ぶよい機会になったものと思っています。

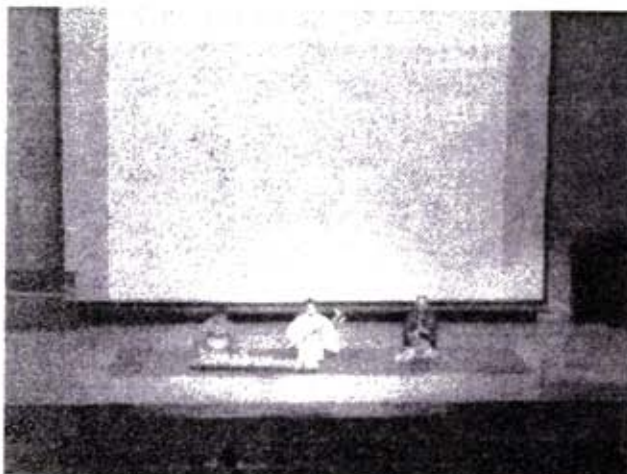
懇親会においては、楽しい中にも、基調講演やシンポジウム、ワークショップ、研究発表に関して更なる有意義な交流があった模様です。

ところで本大会が、教育学部と共催で開催されたことは、本学会の今後のあり方に一石を投じるものと考えております。本学会と開催大学・学部との連携が密接になればなるほど、本学会の意義・意味が一層深まるものと確信しております。

準備委員会の反省会は、諸般の都合上、まだ開催されていませんが、事後処理は順調に進んでいますのでご安心ください。

最後になりましたが、グリーン・アベニュー大会が無事に成功裏に終了したことは、ご参加の皆様のご協力によるものと感謝しております。厚くお礼を申し上げます。

来年は熊本大学でお会いしましょう！



佐野満穂、楠紀江、鈴木昇歌会員による三曲合奏



中村隆夫会長のごあいさつ

2006年度総会報告

日 時：2006年6月17日（土）15:45～16:45

場 所：岡山大学創立50周年記念館多目的ホール

出席者数：出席者 46 名、委任状 52 名 合計 98 名 2005年6月1日現在会員数：180名

議 長：松下 允彦

記 録：中村 隆夫

1. 開会の辞：中村隆夫（会長）

2. 議長選出：松下允彦さん（静岡大学）が選出された。

3. 報 告：「総会資料集」記載事項に基づいて以下の順に報告され、一部修正の上すべて承認された。

(1) 2005年度事業報告

1. 第3回＜アクアブルー＞大会 2005年7月2日（土）～3日（日）

於：静岡コンベンションアーツセンター

2. 理事会 第1回 2005年6月18日（土）於：岡山大学教育学部音楽棟

第2回 2005年7月2日（土）於：静岡コンベンションアーツセンター

第3回以降 電子媒体による持ち回り会議

3. 編集委員会 第1回 2005年7月3日（日） 於：静岡コンベンションアーツセンター

第2回 2005年8月22日（日） 於：静岡大学北山研究室

第3回以降 電子媒体による持ち回り会議と編集作業等

4. 選挙管理委員会 第1回 2005年11月30日（水）於：学会事務局 日程と選挙方法について

第2回 2006年3月31日（金）於：学会事務局 被推薦者の確定と選挙用紙送付

第3回 2006年5月6日（土）於：学会事務局 開票作業並びに会長への報告

5. 学会誌『音楽表現学』Vol.3 2005年11月30日発行

6. ニュースレター No.1 2005年7月31日発行

No.2 2005年11月30日発行

No.3 2006年3月31日発行

7. 後援 マリー・シェーファー「挽歌」講演とコンサートなど9件

8. 会員数 180名（2006年6月1日現在）



高橋香代岡山大学教育学部長のごあいさつ



井戸和秀大会実行委員長のごあいさつ

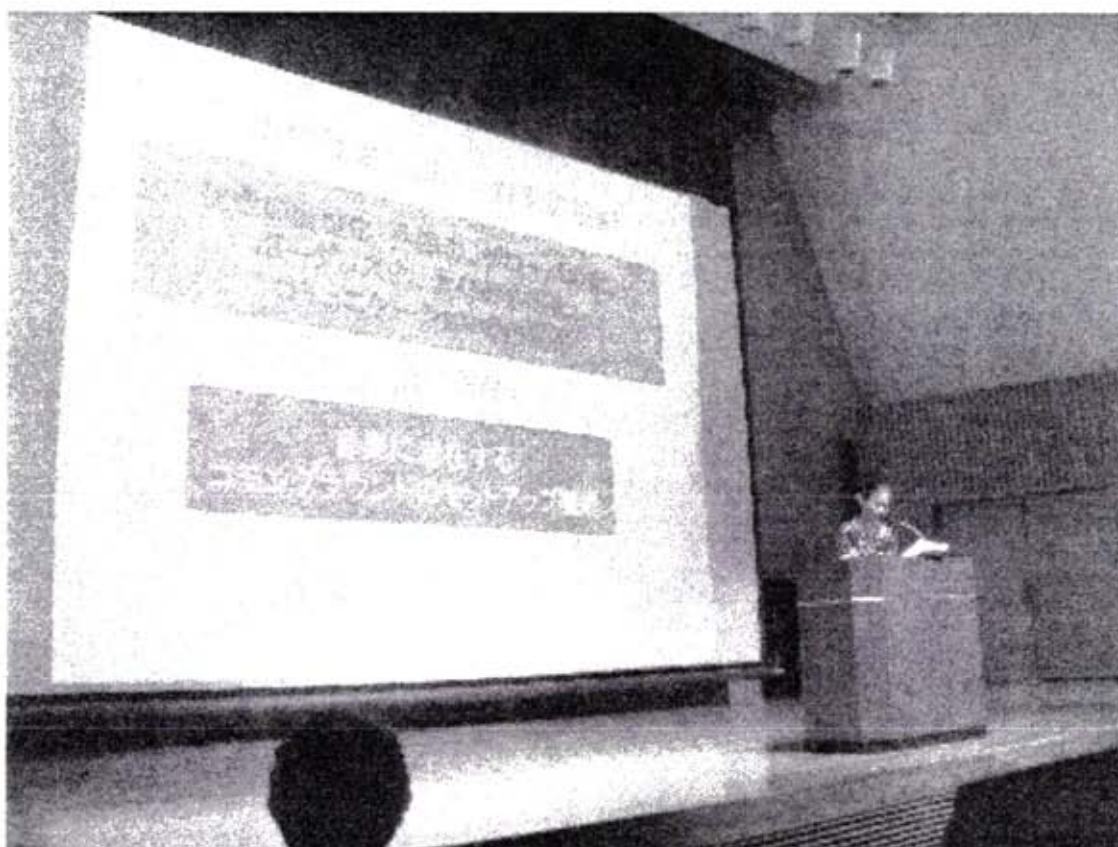
(2) 第3回（アクアブルー大会）決算報告

【収入】

費 目	金 額 (円)	備 考
大会参加費	414,000	4,000円×78名, 1,500円(当日学生参加) ×68名
広告費	450,000	
懇親会費	255,000	5,000円×51名
合 計	1,119,000	

【支出】

費 目	金 額 (円)	備 考
基調講演	55,000	謝礼+交通費
会場費	56,240	第2日のみ。第1日は文部科学省科学研究費補助金
印刷費	195,000	大会要項, 総会資料, 等
人件費	48,195	当日アルバイト, 昼食代
実行委員会会議費	50,500	
雑費	20,000	
通信費	13,000	
懇親会費	255,000	
一般会計へ繰り入れ	426,065	
合 計	1,119,000	



五嶋みどり氏による基調講演「これからの演奏家の理想の姿」

(3) 2005年度会計報告・監査報告

【収入】

費 目	予 算	決 算	備 考
2005年度会費（130名）	650,000	474,000	5,000×92名+3,000×3名, 2006年度分1名
学会誌売り上げ	0	28,500	
大会から繰り入れ	251,000	426,065	
合 計	901,000	928,565	

【支出】

費 目	予 算	決 算	備 考
『音楽表現学』印刷費	550,000	658,770	含・振込手数料420
学会誌等 メール便発送料	70,000	79,995	含・振込手数料420
ニュースレター等用紙代	0	98,070	含・振込手数料1995
理事会 会議費	3,000	0	
交通費	45,000	43,000	
編集委員会 会議費	10,000	5,049	
交通費	150,000	98,090	
選挙費用 書類送付料	40,000	0	
雑費	25,000	4,532	
年会費（郵）振込手数料	0*	5,570	
前年度からの繰越	△ 46,741	△ 46,741	
小 計	939,741	1,039,817	
次年度繰越	△ 38,741	△ 111,252	
合 計	901,000	928,565	

上記の通り報告いたします。

2006年5月6日 会計担当 柳井 修 印

上記の通り相違ありません

2006年5月6日 監 事 川口 容子 印
若井 健司 印



2005年度
大会の活動

ニュー・エッセイ・エンゲージメント

パネリスト 五城みどり 音楽家・作曲家

岸上 祥夫 神戸女学院大学教授

松本 勉 元天理小学校教諭

司会 若井 健司 岡山大学教授

(4) 2006-7年度会長・理事選挙報告

1) 選挙権者総数(2006年3月31日現在会員数) : 172名

2) 投票総数と投票率
 会長選挙 63票 36.6 %
 理事選挙 64票 37.2 %

3) 被推薦者と得票数

役員名	被推薦者名	得票数	白票数	無効票数
会 長	中村 隆夫	59	1	3
理 事	安藤 政輝	61	1	2
	奥 忍	61	1	2
	川口 容子	59	2	3
	権藤 敦子	61	1	2
	佐々木正利	59	3	2
	森川 京子	57	5	2

(5) その他 なし

6月17日午前中に開かれた
 編集委員会
 左から谷口、一人おいて
 杉江、北山、安田、後藤の
 各委員と事務局長



4. 協議

(1) 2006-7年度役員体制について

会 長：中村 隆夫	奥 忍 (事務局)		
副会長：安藤 政輝	権藤 敦子	佐々木正利	森川 京子
理 事：川口 容子	加藤 晴子		
監 事：若井 健司			

(2) 2006年度事業計画(案)について

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 第4回(グリーン・アベニュー)大会 | 2006年6月17日(土)～18日(日)
於：岡山大学創立50周年記念館 |
| 2. 理事会 | 第1回 2006年6月17日(土) 於：岡山大学創立50周年記念館
第2回以降 電子媒体による持ち回り会議 |
| 3. 編集委員会 | 第1回 2006年6月17日(土) 於：岡山大学創立50周年記念館
第2回 2006年7月7日(金) 於：静岡大学北山研究室
第3回 2006年8月20日(日) 於：静岡大学北山研究室
第4回以降 電子媒体による持ち回り会議と編集作業等 |
| 4. 学会誌『音楽表現学』Vol.4 | 2006年11月30日発行 |
| 5. ニュースレター No.1 | 2006年7月31日発行 |
| No.2 | 2006年11月30日発行 |
| No.3 | 2007年3月31日発行 |
| 6. 2006年度名簿発行 | 2006年7月31日 |
| 7. 後援 | |
| 8. 会員数 | 200名(2007年6月1日現在) |

(3) 第4回（グリーン・アベニュー）大会予算（案）について

【収入】

費 目	金 額 (円)	備 考
大会参加費	420,000	4,000円×80名, 2,500円(当日参加)×40名
助成金	300,000	福武教育振興財団研究大会助成
広告費等	300,000	
懇親会費	300,000	5,000円×60名
合 計	1,320,000	

【支出】

費 目	金 額 (円)	備 考
基調講演 謝礼	100,000	交通費, 宿泊費は林原共済会
パネリスト 謝礼	100,000	岡山←→神戸, 岡山←→天理の交通費を含む
アップライトピアノ運搬・調律	50,000	教育学部音楽棟1F←→会場
チェンバロ運搬・調律	70,000	教育学部音楽棟3F←→会場
大会要項印刷費	250,000	
ちらしポスター等作成費	70,000	
実行委員会会議費	10,000	
人件費	70,000	アルバイト, 昼食代
通信費	100,000	大会要項送付を含む
雑費	20,000	
懇親会費	300,000	
一般会計へ繰入	180,000	
合 計	1,320,000	



(4) 2006年度予算(案)について

【収入】

費 目	予 算	[参考] 2005年度	
		予 算	決 算
2006年度会費 (180名)	900,000	650,000	474,000
学会誌売り上げ (10冊)	15,000	0	28,500
大会から繰り入れ	180,000	251,000	426,065
合 計	1,095,000	901,000	928,565

【支出】

『音楽表現学』印刷費	700,000	550,000	658,770
学会誌等 発送費	85,000	70,000	79,995
ニュースレター等用紙代	20,000	0	98,070
理事会 会議費	10,000	3,000	0
交通費	50,000	45,000	43,000
編集委員会 会議費	10,000	10,000	5,049
交通費	150,000	150,000	98,090
選挙費用 投票用後納料金	30,000	40,000	0
雑費	25,000	25,000	4,532
年会費(郵)振込手数料	10,000	0	5,570
前年度からの繰越	△ 111,252	△ 46,741	△ 46,741
小 計	1,201,252	939,741	1,039,817
次年度繰越	△ 106,252	△ 38,741	△ 111,252
合 計	1,095,000	901,000	928,565



2003年度(設立時)+2004-5年度理事(右から草下實、小西潤子、柳井修)に感謝の大きな拍手が送られました。

(5) 編集委員会規定改正案について

アンダーラインは変更部分

現 行	改 正 案
2. 原稿の種別 (1) 原著論文 (Original paper) : 音楽の演奏, 創作, 教育等に関する研究論文で, その内容が有意義であるもの。 (2) 資料論文 (Review article) : 音楽の演奏, 創作, 教育等に関する特定の問題についての評論論文。 (3) 研究報告 (Short report) : 試験的報告, 内外諸研究の追試的検討, 新しい方法の提案など。 (4) 寄書 (Letter to the editor) : 研究速報, 討論, 提案, 研究会に対する意見など。 (5) 展望 : 今日的な問題に関して, 今後の展望を記述したもの。 (6) 解説 : 特定の主題について, 専門外の者にも分かりやすい解説など。 (7) その他, 国際会議参加報告, 書評, 研究所紹介など。 なお, (1)~(4)の原稿は投稿によるものとし, (5)~(7) の原稿は編集委員会からの依頼によるものとする。	2. 原稿の種別 (1) 原著論文 (Original paper) : 音楽の演奏, 創作, 教育等に関する研究論文で, その内容が有意義であるもの。 (2) <u>評論論文 (Review article) : 音楽の演奏, 創作, 教育等に関する評論論文で, その内容が有意義であるもの。</u> (3) 研究報告 (Short report) : 試験的報告, 内外諸研究の追試的検討, <u>研究資料の公表</u>, 新しい方法の提案など。 (4) 寄書 (Letter to the editor) : 研究速報, 討論, 提案, <u>学会</u>に対する意見など。 (5) 展望 : 今日的な問題に関して, 今後の展望を記述したもの。 (6) 解説 : 特定の主題について, 専門外の者にも分かりやすい解説など。 (7) その他, 国際会議参加報告, 書評, 研究所紹介など。 なお, (1)~(4)の原稿は投稿によるものとし, (5)~(7) の原稿は編集委員会からの依頼によるものとする。

改正の趣旨

これまで「(2) 資料論文」の位置づけが曖昧であったことに加え, そこに述べられている「評論論文」という文言との整合性が明確でなかったため, この項目の名称を「(2) 評論論文」と改め, 「資料論文」にあたるものについては「(3) 研究報告」の記述に「研究資料の公表」を挿入することによって全体的整合性をより明確なものとした。これによって, 本学会の特徴である「音楽表現」についてのスタンスを内外にアピールし, 隣接する他学会との差別化ができるのではないかと考えた。

また同時に, 「(4) 寄書」における「研究会」の文言を「学会」と改め, より民主的な学会運営に対する姿勢を明らかなものとすることにした。

(編集委員会)



(6) 第5回大会開催候補地について



日本音楽表現学会 第5回大会

期日：2007年6月16日(土)～17日(日)
会場：熊本大学

(7) その他 なし



バッハの無伴奏曲の新しい見方が示されたワークショップA



ワークショップBでは尺八を鳴らすことができました。



傾城阿波鳴門を小学生が語る!? VTRの実践に刺激を受けて響く参加者の義太夫



会話がはずむコーヒープレーク



展示ブースにはめずらしい楽器が並んで



毎年珍芸が披露される懇親会。

音楽は人つなぐ

“共通言語”

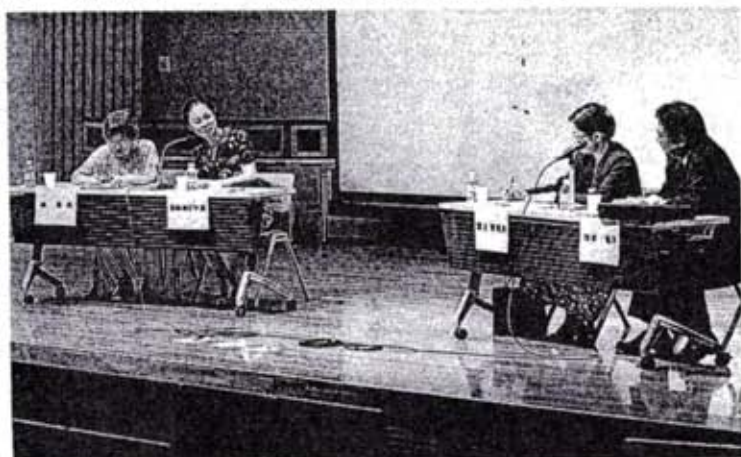
五嶋みどりさん 岡山の学会で講演

あらゆる角度から音楽の可能性を追究する「日本音楽表現学会」(会長・中村隆夫北海道教育大教授)の第4回大会が、岡山大(岡山市津島中)で開かれた。世界的バイオリニスト五嶋みどりさんの基調講演「これからの音楽家の理想の姿」があり、続くシンポジウムでは音楽が現代社会とどのようなつながりを持てるのかを探った。(平井美佳)

五嶋さんはまず、音楽が歴史的に宗教、戦争、宮廷・劇場的な印象を持たれる」と場文化など社会現象と密接に結び付いており、特定のグループを対象とする作曲家、演奏家が目的別にはっきりとした役割を担ってきたと普及。ところが現代社会はボーダーレス。「世間の多様化が進む一方で、音楽が昔と変わらないう一部ターゲットに向けて発せられるなら時代錯誤も甚だしく、現実離れしていると思われて仕方ない」と切っ掛けをとりわけ自身が属するクラシックの世界は「このリアリティ」五嶋さんは「社会では、生

語源はコモン

では、文化的背景も考え方も複雑極まりない現代で、音楽はどんな位置付けが得られるのか。



地域における音楽の役割を探ったシンポジウム。(左から)コーディネーターの奥野・岡山大教授、五嶋みどりさん、津上智実・神戸女学院大教授、松本勤さん

地域に出てこそ価値

活者の間にある何らかのコミュニケーション(共通基盤)からつながりが生まれる。容易ではないが、言葉を用いない人をつなぐ「共通言語」とするならば音楽を地域に浸透

「エフ・みどり 大阪府出身。1982年ニューヨーク・フィルとの共演でデビュー。十代から世界の名だたる楽団・指揮者と演奏。現在は南カリフォルニア大ソートン音楽学校で講師を務める。」

学校に入り込む

け」という。

日米両国でさまざまな地域活動を行ってきたからその実感だろう。米国では一九九二年、ニューヨーク州の公立校での音楽科削減を知り、NPO団体ミドリ&フレンズを設立。昨年度は米国内で四十五のパートナー校に計十五人の音楽家を派遣、約九千五百人の幼小中高校生と触れ合った。初歩的な歌や楽器作りに始まり、週一回、放課後に合奏練習するまで段階別のプロダクションがある。コンサートの前には講義やワークショップを行うなど、学校に入り込むのが特徴。

さらに三年前には大人向けにNPOを新設、安価なコン

子どもへ働きかけ

「音楽は世の中を変えないが、世の中の見方を変える」「音楽家は地域の良きと意識し、地域に出てこそ価値がある」。これが五嶋さんの持論だ。特に「知識はインターネットで手に入る時代だが、体に蓄積される情緒はそうはいかない」と子どもへの働きかけを強調し、故にコンサート活動と地域活動を両輪とする音楽家の育成を急務に挙げ

新旧役員の紹介

<2006・7年度新役員>

会長 中村隆夫

学会発足以来、会員の皆さんの温かい支えで会長の役を務めさせていただき、いよいよこれが最後の任期です。この会がますます発展し、皆さんにとって有意義なものとなるよう努力いたします。

副会長 安藤政輝

学会発足以来、理事を務めさせていただきました。今回、副会長という大役を仰せつかり、舞台以上に緊張しております。中村会長・奥事務局長を補佐し、日本音楽に関わる者として、学会に貢献できるよう精一杯努力してまいります。

副会長（事務局長） 奥 忍

学会発足以来、事務局の任を担ってきました。今期は事務局の仕事を整理して、各理事と互いに分担・協力しながらよりスムーズな運営を組織的にやりたいと考えています。

理事（会計担当） 川口容子

この度会計をお引き受けしました。遺漏の無いように務めたいと思います。献身的に尽くされた前理事の方々を見習ってこのお役を務め、次世代に引き継げれば幸いです。

この音楽表現学会に期待することは、質を落とさないということです。ご発表や質問等を伺っていますと、学会員皆様、深い質の高い研究をされていて、現在はローマ字のI字型であるように思います。発表者・参加者が一体となって上昇しているように感じるからです。経済的にはピラミッド型であれば安定するのですが、私は今のままI字型が太くなり、伝統を創っていくといいなと思います。

理事（文書担当） 権藤敦子

2年間、編集委員会に出席させて頂くなかで、「できる限り会員を励まし、研究の支援をする」という方針に貫かれた活動を通して、大変多くのことを学ばせて頂きました。今期は学会の文書担当として微力ながら精一杯務めたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

理事（企画、ニューズレター） 佐々木正利

学会発足以来の会員でしたが、これまで日本教育大学協会音楽部会の方の用務がありましたので、あまり本学会には貢献できず反省しております。この度縁あって理事を拝命致しましたので、微力ながら焦らず学会の発展に寄与できればと思っています。

理事（事務局補佐） 森川京子

理事2期目、学会への演奏家の参加を呼びかけ、最後のご奉公にしたいと考えています。

監事 若井健司

2005-6年度から監事を務めています。今期もよろしくをお願いいたします。

監事 加藤晴子

音楽表現学会では、様々な視点から勉強させていただいております。今回、役員を仰せつかりました。少しでも会のお役に立てばと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

<旧役員>

（副会長） 草下 實

本学会発足人のひとりとして学会名を考えるとところから始まり、あっという間に立派に成長した姿に感動すら覚え、ひたすら役員や会員の皆様に心から感謝いたします。

（理事） 小西潤子

理事をさせていただいたことにより、素晴らしい方々との出会いがあり、また皆さまからたくさんのことを学ばせていただきました。この経験を今後もさまざまな場面で活かしていきたいと思っています。

（理事） 柳井 修

学会の設立から関わらせて頂いたことは、それだけで大変幸せなことだと感謝しております。会計係は私の最も不得手な務めですが、文字通りゼロからのスタートでしたので、色々な意味でとても楽しめました。最後に一言。「会費納入はスッキリと」



旧理事会：左から柳井、安藤、小西、草下、中村、奥、森川



新理事会：安藤、森川、奥、中村、権藤（欠席：川口、佐々木）

[コラム]

日本音楽表現学会 Q & A

Q: このたび職を離れて家事に専念することになりました。所属するところがなくても会員を継続できるのでしょうか？

A: 音楽表現の研究に興味・関心のある方であれば所属の有無は関係ありません。様々な立場の人が集まることで、本学会の活動はよりよいものになります。

Q: 大学院生は学生会員として扱ってもらえますか？

A: 学生会員として認められるのは学部学生までです。つまり、大学院生は立派な研究者とみなされているのです。

Q: 共同研究者が非会員でも論文は応募できますか？

A: できません。その場合には共同研究者にも会員になっていただき、ともに研究の環を広げていただけることを期待します。

Q: 学会から後援をいただくと経費を補助してもらえるのでしょうか？

A: いいえ、経費の補助はありません。どうぞプログラムやチラシに学会が後援していることを記載してください。このことによって、参会者には「音楽表現学に関心があり、研究している人の演奏であること」が分かります。他の学会員に対しては、ニューズレターの

「会員のコンサート」欄に掲載されますので、あなた自身の情報発信になり刺激になります。演奏会やイベントを開かれるときにはどうぞ印刷前にお知らせください。

Q: 音楽表現に関する論文や書籍の出版はどのように扱われますか？

A: ニューズレターの『会員のアウトプット』欄に掲載します。論文が印刷されたらどうぞお知らせください。また、書籍の著者欄には「日本音楽表現学会会員」であることをお記してください。

Q: 『音楽表現学』に投稿するほどのものではないのですが、音楽表現について考えています。このような場合、自分の意見を学会員に見てもらえる機会はあるのでしょうか？

A: はい、あります。ニューズレターに「意見」としてご投稿ください。普段考えていらっしゃることも、最近何かの書物などで読まれた記事、『音楽表現学』の論文によって引き起こされたご自分の考えなど、どのような内容でも結構です。第1号は『大会特集』のため、投稿記事は掲載しませんが、第2号、第3号ではご投稿をお待ちしています。

新入会員紹介

2006年7月31日付『日本音楽表現学会会員名簿』を発行しますので、そちらをご覧ください。現在学会員は187名です。また、入会申込書の書式を最終頁に掲載していますので、お知り合いの方々に入会をお勧めください。

奥 忍

菅 道子

阿部祐治

第27回ISME世界大会のテーマは「Sentuhan」(文化や民族の違いを越えた融合)。マレーシアの首都クアラルンプールの7月16日～7月21日は、90数カ国から1400人を超える音楽関係者が世界各地から集まり、研究発表、演奏会、ワークショップなどで交流し、切磋琢磨し合う、まさにテーマ通りの1週間だった。

会場のコンベンションセンターは大小さまざまな部屋を多数取り揃えた巨大な施設である。マレーシアの人々は、国際会議につきものの混乱に対して一つずつ誠実に対応され、すばらしく心地よい大会となった。

本学会にはISMEと深い関わりを持つ会員が多い。元理事で今回の会長・理事選挙の選挙管理委員を務められた三好恒明さん、前理事で研究委員会では長年中核となって活動しておられた村尾忠廣さんをはじめ、プログラムにも近藤真子さん、杉江淑子さん、田中健次さん、降矢美彌子さん等の名前が散見できた。

日本からの演奏団体は、降矢美彌子さん率いる福島コダーイ合唱団、その中には目黒雅子さんも見えた。その他、天理大学雅楽部、「三戸・佐藤デュオ」が参加、いずれも参会者に強い印象を与えることができた。

私は、ヤマハの支援を得て「アジア諸国の音楽教科書・教材教具展」を開催した。田中さんのパネル・ディスカッション「アジア諸国の音楽教育に関する批判的検討」と連携したこともあって、9カ国の音楽教育関係者から協力を得ることができた。なお、展示された資料は整理の上、国立音楽大学の図書館に寄贈して、関心のある人たちに公開できるよう準備を進めている。また、報告書が完成すればお知らせしたい。

なお、前2年度に引き続き、今2年度も常任理事を務めることが決定した。音楽文化と音楽教育の充実と発展のために今後も積極的に活動をしていきたい。

初めて、ISME第27回大会に参加しました。いざ行ってみれば、ワールドワイドに音楽教育の研究、実践、演奏を体験できるすばらしい週間でした。なかでも印象深かったことの一つは、オープンニング・レセプションで90数カ国から集まったという千人近い人々を目の前にし、その数の多さと多様さ(言葉、装い、肌の色の違い)に圧倒されたことでした。うまく表現できないのですが、音楽教育に関心をもつ人が世界中にこんなに沢山存在し、日々の営みの中で音楽を創り出しているという思いを肌で感じたのだと思います。

二つ目は、マレーシアの伝統音楽とポピュラー音楽の融合に、新鮮な驚きをもったことです。2日目の歓迎コンサート(マレーシア・ナイト)では、

オーケストラの他、ガムラン、シタール、エレキギター&ドラムの演奏があり、さらに人気歌手のデュオなど華麗なフュージョン音楽がくり広げられました。こうした音楽文化のあり方は、複合民族国家であるマレーシアの国民性に拠る部分が多いのだと思う。

一方、3日目のエクスカッション(場外でのワークショップ)では、Rebana Ubiという太鼓の合奏を経験し、古い様式を重視した伝統音楽の継承という考え方もあることがわかりました。オリジナリティの尊重と柔軟な文化融合、どちらが良いと単純にいえる問題ではありません。ただ、自分の画一的な考え方、価値観で世界を観ることはできないものとしみじみ感じました。

三つ目は、ワークショップを満喫できたことでした。いくつかのオルフのワークショップでは、リズムのオスティナートと声・楽器による即興に、動きをうまく結びつけ、最後には、グループ皆で一つの音楽作品を創っていました。世界各地から集まった人々と遊ぶように音楽を創り交流できたことは、理屈無しに心躍る経験であり、大会テーマSentuhanを堪能することができました。

もし、「世界大会なんて」と最初の一步を踏み出せない方がいたら、「是非2年後のポローニャへ」とお誘いし、感想記とさせていただきます。



いわき地方民俗芸能「じゃんがら念仏踊り」を演じる福島コダーイ合唱団



会員によるコンサート案内



北とびあ国際音楽祭2006参加公演

「安藤政輝 箏の世界」

日 時：2006/11/19（日）14：00開演
会 場：北とびあ つつじホール
プログラム：《五段砧》《松竹梅》《八重衣》
助 演：野坂恵子、山勢松韻、米川文子
入 場 料：5000円（全席自由）発売は9/1
取 扱 い：チケットぴあ 0570-02-9990
ゼール音楽事務所 03-3995-5221



第2回中国音楽コンサート

主 催：天竜日中友好協会

主な内容：第1部 合唱による中国音楽の演奏、

第2部 会員による唐楽再現並びに

王明君（笛子）と及川夕美（ピアノ）の特別出演

期 日：2006年11月26日（日）14：00～16：00

会 場：天竜壬生ホール

連 絡 先：鈴木昇畝（雅宣） 0539-24-0365



ヘンデル「メサイア」演奏会

趣 旨：バロックの名作を、時代様式にのっとった演奏で多くの聴衆に提供する。

出演者名：指 揮：中村隆夫

演 奏：札幌コダライ合唱団・合奏団

ソリスト：一鐵久美子、斉藤みゆき、中原聡章、他

期日・会場：2006年12月22日（金）「ちえりあ」（札幌）、
23日（土）「マリンホール」（小樽）



モーツァルト in 聖徳 2006

W.A.モーツァルト (1756-1791) 生誕250年の2006年、聖徳音楽文化学科ではモーツァルトの作品の演奏会、モーツァルトとその音楽についての講演会などのイベントを開催されています。詳しくは <http://www.seitoku.ac.jp/daigaku/music/mozart06/index.html> をご覧ください。ここでは音楽の新しい発信の形として会員によるウェブ・リサイタルの演奏と聖徳大学所蔵のモーツァルト自筆譜の記事を紹介します。

Yoshiyuki Hara Mozart Recital

W.A.モーツァルト：

ソナタ第17番（新全集第18番）二長調 K. 576

「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」（キラキラ星による）

12の変奏曲 ハ長調 K.265 (300e) [11.7MB]

《セレナード》二長調 K.185自筆譜

聖徳大学川並記念図書館には、モーツァルトが作曲した《セレナード》二長調 K.185 (K.167a) の第1楽章および第7楽章の自筆譜が所蔵されています。モーツァルト生誕250年を記念して、この貴重な自筆譜を公開され、「モーツァルト in 聖徳2006」の中で演奏されます。



新刊紹介

中村隆夫編曲：ドビュッシー《牧神の午後への前奏曲》「ピアノ・ソロ版」

ピアノ・ミュージック・レパートリー・シリーズ

2006年4月刊行 800円（全音楽譜出版社）



奥 忍："Rituale in der japanischen Schule"

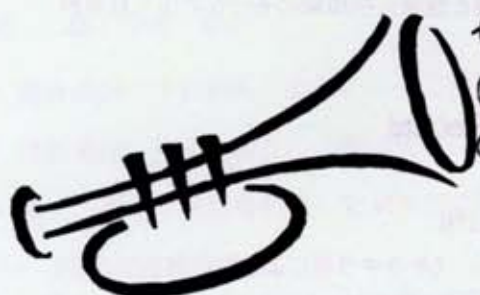
Bernd Clausen 編 "RITUALE" 学校音楽教育における「儀礼」について、

その形成、教育学的意義などを検討する6論文の1本として所収。

2006年7月刊行 AISTHESIS VERLAG ISBN 3-89528-574-9



学 会 か ら の お 知 ら せ



『音楽表現学』 Vol.4 発刊に向けて進行中

Vol.4の原稿募集に際して多数の原稿をお寄せ
くださいました。ありがとうございます。

現在、編集委員会では11月末の発刊に向けて作業を進めています。なにぶん
少人数での作業ですので一人ひとりにかかる負担は大きいのですが、小回りの利くチームワーク
でより充実した学会誌づくりを目指して鋭意努力しています。どうぞご期待ください。

『音楽表現学』 Vol.5 原稿募集

大会日程との関係で締め切り日を5月31日に変更したいと考えています。

編集作業の効率化のため、原稿のコピーを6部お送りいただけると助かります。ご協力よろしく
お願いいたします。詳しくは、学会ホームページ（下記）をご覧ください。たくさんのご応募を
お待ちしております。 <http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~eeakita/kitayama/toukougitei.htm>

2006年度会員名簿をお届けします

昨年度から懸案だった名簿の発行によりやくこぎ着けました。自己紹介形式に対する皆様のご
理解とご協力に対して感謝いたします。

名簿編集に携わった権藤理事と奥事務局長は、作業を丹念に行ったつもりでした。しかし、印
刷してみると表記の不統一、誤字・脱字などが少なからず存在します。また、連絡が取れなく
て、紹介文を掲載することのできなかった会員がいらっしゃいます。このような問題に対してど
う対処するか、今後検討することとして、とりあえず、皆様のお手元にお届けします。修正・加
筆がありましたら、どうぞご遠慮なくお知らせください。よろしくお願いいたします。

ニューズレター2006-No.2号にご投稿ください

ニューズレターは会員の交流の場です。今号はグリーン・アベニュー大会特集号として総会記
事が大半を占めました。第2号は会員の様々な見解や意見を中心に編集したいと考えます。音楽
表現に関するご意見、掲載記事に関するご意見などをお寄せください。ご投稿をお待ちします。



学会費納入に関する切実なお願い



学会は会員の学会費によって運営されています。発足後間もない本学会では、志ある方々の会費前納が学会運営の潤滑油となっています。一方で過年度会費未納の方の存在が経費の負担を招いていることは否めません。

未納の方の中には「郵便局へ行く時間がない」人もいらっしゃるでしょう。そのような方には、複数年度分を前納されることをお勧めします。いずれにせよ、今年度までの会費の納入を切にお願いいたします。

なお、送金は、ニューズレター最終ページに記載された口座へお願いいたします。銀行からの送金は送金者氏名がカタカナで記されるだけですので、会員数が増えてくると同姓同名による混乱が懸念されます。できるだけ郵便局からの送金をお願いいたします。郵便局から送金される場合には、振込用紙をATMに通していただくと手数料が安くなります。

学会は会員の音楽活動・研究活動をサポートします。

★ 研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。

本学会は「日本学術団体」の広報協力団体です。『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

★ 大会の口頭発表は、日本音楽表現学会ならではの表現力を駆使して、文字だけでは伝えられない音声を用い、これまでの研究を発信できる場、それを参加者一同が共有できる場です。

どの大会でも、口頭発表のこのような長所を生かす工夫をしています。例えば他の学会と比べて発表時間を若干長くなっていますが、それは、発表の中で実演などが含まれることを想定しているからです。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その適用性を問うワークショップや研究発表が本学会の伝統になってきました。日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。

★ ニュースレター「会員によるコンサートのご案内」では、各種の演奏、ワークショップ、イベントなどの活動紹介を行います。

これらの活動を学会は「後援」します。みなさまの活動を、ニューズレター最終頁の「後援願」の様式で、どしどしお寄せ下さい。

★ 「会員のアウトプット」では、刊行物の紹介を行います。上梓されたらお知らせください。

★ その他、所属されている他学会の情報などもお寄せ下さい。

(様式)

コンサート等後援願い
日本音楽表現学会の後援をお願いします。

氏 名: _____
所 属: _____
コンサート等の名称: _____
コンサート等の趣旨: _____
主な内容: _____
期 日: _____
会 場: _____
連 絡 先: _____

(様式)

日本音楽表現学会入会申込書
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。

氏 名: _____
専門分野: _____
住 所: _____
所 属: _____
連絡先: _____
連絡先電話番号: _____
連絡先Fax.番号: _____
e-mail アドレス: _____
推薦者名(学会員・1名) _____
音楽表現学会に期待されること。ご意見等:

ニュースレターの「新入会員のご紹介」欄のための原稿執筆のお願い

日本音楽表現学会ではニュースレターで新入会員の紹介を自己紹介の形式で行っています。申し込みと同時に原稿を送っていただくと、連絡や編集作業が順調に進むように思われます。ご協力をよろしくお願いいたします。

1) 自己紹介の内容: 以下の項目の中から適宜選択して、文章にしてください。

なお、「よろしくお願いします」などのご挨拶用文言は省きますので、あしからずご了承下さい。

- ・所属 ・専門 ・音楽表現について思うこと ・この頃思うこと
- ・モットー ・夢 ・ホームページアドレス、等々

2) 字数: 150字を超えない程度でお願いします。

3) 〆切: 入会申込書と同時にご提出ください。

4) 送付方法: メール 本文としてお記し下さい。メールをお使いにならない方は郵送でお願いします。

5) 宛先: s-oku@cc.okayama-u.ac.jp

日本音楽表現学会 役員

会 長: 中村 隆夫
副 会 長: 安藤 政輝, 奥 忍
理 事: 川口 容子, 極藤 敦子
佐々木正利, 森川 京子
会 計 監 事: 若井 健司, 加藤 晴子
編集委員長: 北山 敦康
副委員長: 杉江 淑子
委員: 加藤富美子, 後藤 丹,
谷口雄資, 安田 香

編 集 後 記

2006-7年度の会長・理事選挙が完了し、学会創設時からの理事の半数が新しい顔ぶれに変わった。これまでの3年間はいわば組織作り・組織堅めの時代であった。学会がここまで順調に成長してきたことについて今回退任された理事諸氏の貢献は計り知れない。ここに感謝の意を表したい。また、今回新しく理事に選ばれた方々はすべて強力なパワーを持った方々である。これまで以上に緊密な協力体制を作り上げ、さらなる発展を図りたい。そのために、今期は分担体制をとることとなった。本誌12ページでは理事紹介の記事を掲載している。学会員の諸氏には是非お見知りいただいて学会運営についてさらなるご協力をお願いしたい。(奥忍)